

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

明るく、健康的で、自主・創造性に充ちた意欲を持ち、進んで社会と人類の福祉に寄与するに足る人物を育成する学校をめざす。

1) 異世代・異文化交流によって多様性を享受できる環境を提供し、思いやりのある人物を育成する学校をめざす。

2) 地域連携を通して、自分を取り巻く社会の課題に目を向け意欲的に関わろうとする人物を育成するとともに、地域に信頼される開かれた学校をめざす。

3) 自然災害が多発している今日の日本において、自らの意志によって行動し、己を守り周りを支えることのできる、危機対応に長けた逞しい人物を育成するとともに、危機対応を前提とした安全教育・防災教育を推進する学校をめざす。

2 中期的目標

1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力・支える知恵」の育成に取り組む

ア 教職員からの積極的な挨拶・声掛け等をとおして安心できる環境づくりに努め、すべての生徒に対して規範意識・人権意識の向上を図る。

イ 生徒会活動・学校行事の活性化、部活動の充実化を図る。

ウ 国際交流活動を推進することにより、グローバルな世界観を培う。

エ 「朝の読書」を通して読書を生活習慣の中に確立させるとともに、図書室の役割を強化し、生徒の読書意欲を喚起する環境を整える。

※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を令和8年度まで90%以上を維持する。(R3 88.9%, R4 94.4%, R5 95.2%)

※年間遅刻者延数前年度比10%の減少を図る。(R3 1363, R4 1543, R5 1228)

※部活動加入率を令和8年度まで60%以上(R3 47.0%, R4 47.4%, R5 68.4%)を維持し、生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動関連の肯定的意見を令和8年度まで80%以上を維持する。(R3 79.2%, R4 78.6%, R5 85.0%)

※海外語学研修および国際交流事業を積極的に展開していく。また、より多くの生徒が関わることができる取組みとして実践していく。

※生徒向け学校教育自己診断における朝の読書関連の肯定的意見80%以上とする。(R3 78.8%, R4 82.3%, R5 78.4%)

(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障する

ア 文系選抜コースで、実践運用能力重視の英語の授業、読解力・表現力を取入れた国語の授業を展開し、難関大学への合格をめざす。

イ 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる。

ウ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む。

エ 進学講習を組織的に実施する。

※外部指標のある教材や模擬試験を活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく。

※卒業生の全進学合格数に占める4年制大学合格率を令和8年度まで55%を維持する。(R3 55.8%, R4 57.4%, R5 59.0%)

※学校斡旋の就職内定率を100%とする。(R3 100%, R4 100%, R5 100%)

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を令和8年度まで90%以上を維持する。(R3 90.2%, R4 94.6%, R5 95.9%)

(3) 安全で安心な学校づくりを行う

ア 教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる。担任・SC・SSW等との面談や対応がスムーズに活用できる体制を構築する。

イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、ガイダンス・HRの系統化を図る。

ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る。

エ 地元自治体や地域との連携のもと、防災・減災に向けた取組み及び緊急避難対応等への取組みを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的意見を令和8年度に70%以上とする。(R3 51.9%, R4 61.6%, R5 64.3%)

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的意見を令和8年度まで90%以上を維持する。(R3 86.7%, R4 92.4%, R5 94.8%)

※障がいの有無にかかわらず、配慮の必要な生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実。

2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる

ア 授業において、常に生徒の知識欲や満足度を高めるための研究と実践を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る。

イ 学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う。

ウ 1人1台端末および全教室ICT機器設置の環境を積極的・効果的に活用し、より魅力ある授業の取組みを進める。

エ 放課後や休日における学習習慣が定着する取組みを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和8年度まで80%以上を維持する。(R3 83.1%, R4 82.2%, R5 86.1%)

※教職員向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和8年度まで90%以上を維持する。(R3 91.7%, R4 94.1%, R5 96.7%)

(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる

ア 社会の変化に対応し「学び続ける」意識の共有化を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善をさらに推進する。

イ 「働き方改革」や健康管理の観点から、全校一斉退庁日の設定とノークラブデーの徹底を図る。

※相互授業見学への教員の参加を、授業アンケート等を活用して前年度以上に増やす。(R3 148, R4 113, R5 108)

※若手教員技量向上へ(新採3年めまで対象の)新三研修を継続させ、それを全体研修へと発展させていく。

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく

ア 【学校を外に開く】自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との交流を通して地域貢献を推進する。

イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会を実施し、中学校との連携を強化する。

ウ 【学校を外に開く】高石市や近隣自治体の自然災害に関する事業連携を継続し、地震・津波等に対する危機管理意識の更なる向上を図る。

エ	【学校を内に開く】学校説明会、HP 等を活用して、積極的な情報発信に努める。
オ	【学校を内に開く】学校運営協議会、PTA、同窓会、後援会との連携を強化する。
	※地域交流が活発であったか。
	※生徒、教員による中学校訪問合計数 100 件以上を維持する。(R3 77, R4 111, R5 113)
	※クラブ体験を含めた体験入学者数、学校説明会参加者数の合計延べ 800 名を維持する。(R3 710, R4 827, R5 808)
	※生徒向け学校教育自己診断における危機管理関連の肯定的意見 90%以上を維持する。(R3 91%, R4 93.3%, R5 94.7%)
	※保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定的意見 90%以上を維持する。(R3 83.6%, R4 91.3%, R5 91.5%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒】 総じて肯定的な回答の割合が高いが、今年度も質問 11「担任の先生以外にも職員室、相談室や保健室等に、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定的な回答の割合が 67.2%と低い。生徒が相談しやすくなるように、日頃から教員が生徒との信頼関係を築くとともに、教育相談体制を充実させる必要がある。 また、一昨年度から追加した質問 25「生徒会活動は活発である。」については、昨年度は肯定的な回答の割合が 85.0%と大幅に上昇したが、今年度は 76.3%と低下した。生徒会活動をいかに活性化させていくかを検討する必要がある。 質問 6「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している。」は、今年度は 70.9%と昨年度の 88.9%から大幅に低下した。これは、質問文を昨年度までの「学校はプロジェクターなどの映像機器や 1 人 1 台端末などの情報端末を効果的に活用している。」から今年度は「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している。」に絞り込んだことが主な原因であると考えられるが、1 人 1 台端末の効果的な活用方法について、教員間で情報共有をさらに進める必要がある。 質問 8「朝の読書では、みんなしっかり本を読んでいる。」は、今年度は 69.5%と昨年度の 78.4%から大幅に低下した。特に 1 年生と 3 年生の肯定率が低くなっている。朝の読書の意義について、生徒に改めて情報発信していく必要があると考えられる。 【保護者】 今年度も質問 2「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。」については、肯定的な回答の割合は、52.7%と生徒の割合 86.2%に比べてかなり低い。今後も授業改善に向けた取り組みをより一層進めること、及び保護者への情報発信の充実が必要である。 質問 14「文化祭、授業参観や PTA 活動などで学校に行ったことがある。」の肯定的な回答の割合は 66.0%と一昨年度の 53.3%、昨年度の 60.5%から大幅に増加した。 また、質問 13「体育祭や文化祭などの生徒会行事が活発である。」は、今年度は 91.5%と昨年度の 95.7%からは少し減少したが、他の質問に比べて高い割合であった。新型コロナウイルス感染症の流行を乗り越えて、学校行事が正常化してきたことが評価されたと思われる。 質問 5「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」も、今年度は 87.8%と昨年度の 78.6%から大幅に増加した。教員が普段から子どもの変化に目を配るとともに、年 3 回実施するいじめアンケートの結果をもとに、しっかりと聞き取りを行って状況を把握するよう努めていることが評価されているのではないかと考えられる。 【教職員】 質問 2「校長のリーダーシップのもと、教職員相互の信頼関係に基づいて、教育活動が行われている。」について、肯定的な回答の割合が今年度は 76.5%と昨年度の 36.7%から大幅に増加した。 また、質問 23「本校では、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」についても、今年度の肯定的な回答の割合は 70.6%と昨年度の 50.0%から大幅に上昇した。普段の教育活動について、しっかりと評価を行うとともに、様々な教員の意見を集約しながら本校の教育課題に取り組んで行くことが大切である。 質問 7「本校では、教育活動に必要な情報や連絡事項を、生徒・保護者・地域へ周知するよう努めている。」について、今年度が 91.2%と昨年度の 70.0%から大幅に増加した。今年度から保護者への配布物を学習支援連絡網のメッセージ機能で配信するようにしたことが功を奏したと思われる。 質問 20「生徒は、挨拶をしている。」について、今年度の肯定的な回答の割合は 97.1%と昨年度の 66.7%から大幅に上昇した。教員からの普段からの挨拶や声掛けが功を奏したものと考えられる。今後もこの傾向が続くよう、積極的に挨拶や声掛けを続けていきたい。 質問 4「授業は静かで、生徒は集中している。」については、肯定的な回答の割合が 82.4%と昨年度の 96.7%から	第 1 回（令和 6 年 7 月 6 日実施） ＜学校経営計画に関連して＞ ○令和 5 年度学校評価において達成度が△だった項目（朝の読書、生徒情報共有、教員間の授業見学、生徒の家庭学習時間）に対して、今年度はどのように取り組んでいくか。 →朝の読書については、朝の読書のやり方や時程などを見直し、教員に向けて丁寧に説明することで、朝読のよさをまず教員が理解し、その後を生徒におろしていく。生徒情報共有については、アンケート等で得られた情報を学年に卸し、担任会などを通して情報共有やフィードバックができるように徹底する。教員間の授業見学については、秋に設けている見学期間のアナウンスを徹底し、教員に周知する。生徒の家庭学習時間については、マルチタスクが苦手な生徒が増えているので、忙しく感じているのではないかと思われる。そこで、課題という形で生徒に投げかけることで勉強時間の増加を図っていく。 ＜進路指導について＞ ○専門学校や短大に進学する生徒はどの分野に進むのか。また、どのような意欲をもっているのか。 →専門学校は医療や理美容、建築など多岐に渡っている。短大はほとんどが幼児教育に進んでいる。 ○中期的目標の中に、文系選抜コースで読解力・表現力を取り入れた国語の授業を展開し、難関大学への合格をめざすとあるが、具体的にどのような授業か。また、理系はどうなのか。 →グループワークやペアワークを取り入れた授業を展開していく。理系は理数特化のカリキュラムを組んでいる。しかし、理系での難関大学への合格は難しいのが現状である。 ○時代の流れをふまえた進路指導をしていかなければならないのではないか。 →話し合いを重ね、来年度以降に反映していく。 ＜生徒会活動について＞ ○アルバイトを許可しているのか。また、許可しているのであれば何人ぐらいアルバイトをしているのか。 →アルバイトをしないとお小遣いが無くなってしまうなど、アルバイトが必要な生徒もいるので禁止していない。数に関しては正確に把握していない。 ＜生徒指導について＞ ○学校でのスマホ使用は許されているのか。 →基本的には授業中は禁止。ただし、調べものなど教員が許可した場合は使用できる。また、授業時間外は使用していてもよい。 ○自転車での通学時にヘルメット着用を義務づけるようなルールはあるのか。 →ヘルメットの置き場など整備できていないことがあるので努力義務にしている。しかし、合格者説明会や集会などで、ヘルメット着用の安全性についてアナウンスをしている。 ＜入試について＞ ○来年度の定員は何人なのか。 →大阪府教育委員会の決定次第なので 11 月中旬まではわからない。 ○2 月に公立入試をする可能性があることについてどう思うか。 →学校教育審議会にて話が出た。静岡県の入試モデルを参考にしている。 ＜公立学校の定員割れが目立つ中で今後どうあるべきか＞ ○保護者のニーズが私立寄りなのではないか。 ○私立学校は広報が上手である。 ○私立学校に比べて縛りの少ない公立学校は、社会のニーズにアンテナを張ることが必要なのではないかと。 第 2 回（令和 6 年 12 月 4 日実施） ＜学校運営全般について＞ ○1 年生の 5 月、6 月に転学する生徒がいることは問題である。その生徒はどのような状況で学校としてどのように対応しているのか。 →入学したものの、生徒自身が学校になじめず学校に行きたいという気持ちが向かない状況であった。担任も親と連携して様々なアプローチをして尽力してきたが、残念ながら転学することとなった。 ○今後高石市との包括連携を結ぶ予定であるとのことなので、泉大津市内の中学校への出前授業だけではなく、高石市内の中学校へも出前授業を行ってほしい。 →今後検討していきたい。 ○広報手段として、高石高校のInstagramがない。使ってみてはどうか。Instagramの投稿で PTA の活動を報告することで、PTA 役員の指名がしやすくなるのではないかと。 →他の高校でも活用している例があると聞いているので、本校でも検討中である。SNS は難しいこともあるが、使いこなすことができればより有効な PR 方法である。 ＜生徒指導について＞ ○道路交通法で、自転車の「ながら運転」や「飲酒運転」に対する罰則が強化されるとともに、自転車に乗車する際のヘルメットの着用が努力義務化されている。これらのことをしっかりと指導をしてほしい。 →1 学期に 1 年生に交通安全指導講習を行って指導するとともに、終業式や始業式の際にも生徒に注意喚起を行っている。ヘルメットの着用については努力義務ということで、登下校時に必ず着用するようにという指導はしていないが、着用を呼び掛けるとともに、希望する生徒にヘルメットを寄贈してくれるという企業があり、府教育庁を通じて希望する生徒の人数を調査してほしいという通知があったので、現在希望者を募っているところである。 ○自転車の事故はないか。 →少なからずあるが、それでも少数である。 ＜進路指導について＞ ○1 日あたりの勉強時間の平均が 26 分は少ない。 →生徒の家庭学習の時間をどのようにして長くしていくかは大きな課題である。クロムブック等を活用しながら事前課題や復習のための課題をあたえるなど、有効な方策を考えて課題を解決していきたい。 ○実力テストの Web 回答も良かった。授業中での ICT 活用や調べ学習で困っていることはないか。 →授業での ICT 使用率は増えている。(7、8 割の教員が使用) 生徒と教員は 1 人 1 台端末を持っている。クイズ形式のアプリがあり、楽しく学べる。 ＜学校生活について＞ ○いじめアンケート（年 3 回実施）について、小さなことでもいじめの兆候を見逃さないようにしてほしい。重大事象になる前にいじめを防ぐことが重要である。 →本校ではいじめの認知件数は少ないが、現場の先生が小さいことでも許さないということを肝に銘じている結果である。今後もしっかりと取り組んでいきたい。 ○闇バイトに関して最近問題になっているが、高石高校では生徒にどのような指導をしているのか。 →事前の指導は必要である。検挙された場合の代償の重さが、得られる報酬に対して割に合わないことをしっかりと伝え、指示役から個人情報やネタに脅迫されても決して犯罪に加担せず、周りの大人や警察に必ず相談して解決するよう指導する必要がある。明らかに高額なら怪しいが、最近は少額の報酬で実行役を勧誘したり、最初は普通のバイトを装って勧誘してくるケースもあるため、それらも含めて、終業式等の機会にしっかりと指導していきたい。

府立高石高等学校

低下している。生徒が落ち着いた状況で授業を受けられるような教室の雰囲気をつかいて作っていくかを考えていく必要がある。 質問 10「本校では、生徒の興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう指導を行っている。」については今年度の肯定的な回答の割合は 81.8％と昨年度の 93.3％から大幅に低下した。進路説明会や進路 HR などの内容をさらに充実させるとともに、普段の授業の中で自分の進路について考える機会を増やしていくことが大切である。	<地域連携活動について> ○徳島県立池田高校を合同部活動のペアリング校として選んだきっかけは？ →「たか高トライアングル事業」の一環として、以前に徳島県で教員をしていた本校教員とのつながりがあったため、池田高校にお願いすることとなった。 ○高石市総合防災訓練「イザ！カエルキャラバン！」への本校生徒有志の参加は素晴らしい取組みだ。今後も続けてほしい。 ○ボート体験会、参加人数は？ →1 ケタの人数であった。初めての取組みで泉大津市立中学校への周知が不十分だったと思われる。12 月には高石市立中学校の生徒と保護者を対象として実施する予定である。 <入試について> ○今年度の入試から、オンライン化が始まる。支障はないか。 →自己申告票の入力方法が中学校によって異なることや、不備のある出願に対する対処方法など、試行段階でも様々な課題が判明している。本番で実際に運用する際にスムーズに処理ができるよう、しっかりとシミュレーションしていきたい。 ○来年度は何クラス募集か。 →8 クラス（昨年度比 1 クラス減）募集である。 <広報について> ○来年度の中学生の志望動向や広報活動について。 →中学校訪問の際に中学校の先生に話を伺ったところ、高石市より南の中学校は地元で私立高校が少ないため、公立志向であると聞いている。高石より北のことは情報が少ないのでわからない。中学生には、足を運んで高石高校を見てもらいたい。 第 3 回（令和 7 年 2 月 27 日実施） <令和 7 年度学校経営計画について> ○めざす学校像に進学支援の内容を書いても良いのではないかな。 →進学支援に関する数値として合格率などの目標を設定している。 <授業見学について> ○1 人あたりどれぐらい授業見学にいつているのか。 →個人差はあるが、平均すると 2、3 回である。 ○授業見学を増やす対策はしているのか。 →授業見学週間を設けている。 ○グループ制度やペアリング制度を導入してみてはどうか。 <観点別評価について> ○評価の仕方と指導の仕方はどのようなものなのか。 →観点別学習状況の評価については、教科ごとに決定し生徒に公表しています。3 観点をそれぞれ 100 点満点で評価して、平均したものを評点として算出している。 ○生徒自ら勉強したいと思えるようにはどうすれば良いのか。 →まずは「目標を決める」ための取組みを行う。アンケートには志望校の決定後に学習時間が長くなることが分かっている。そこで本校では早い段階で進路について考える行事を企画している。 <進路指導部について> ○面接対策の効果はどのようなものか。 →本校では進学せよ就職にせよ、準備を必要とする生徒が多くいます。入室の方法から退室まで丁寧に指導するので、効果は大きいと考えている。 <生徒指導について> ○自転車事故の件数は何件か。 →正確にはわからないが 2, 3 件報告を聞いている。 →後から発覚する場合もあり正確には把握しづらいのが現状である。 ○ヘルメットの着用状況はどうであるか。 →現状は努力義務である。 →全校集会で周知しているが、全校生徒で 10 人程度しか着用していない。 <頭髪・服装について> ○時代が変わっているので、生徒の意見を取り入れてみてはどうか。 <朝読について> ○肯定率が低い、遅刻者に邪魔をされていないのか。 →遅刻者による邪魔は無いと思う。しかし、朝読に向かう雰囲気はクラスによって差がある。実際、集中できていない生徒もいる。 →今後は、教員で朝読の意義を確認していく。 <図書室について> ○貸出冊数が減っている。ビブリオバトルをやってみてはどうか。 ○読んだだけで終わらないために、手作り POP の例もある。 <アンケート結果について> ○「学校生活は楽しいか」の質問と「高石高校に入学して良かったか」の質問に対して、前者のほうが肯定的な回答が多いのはなぜか。 →「高石高校に入学して良かった」という割合は学年が上がるにしたがって上がっている。学年別にみると 3 年生で約 6 % も上がっている。 <定員割れについて> ○人口が減っているので長期的な視野で考えていかなければならない。 <詐欺・闇バイトについて> ○情報共有できる場はあるのか。 →来年度以降は警察の方に薬物乱用防止と同時に指導してもらうことを検討している。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校	(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む	(1) ・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む。 ・国際交流の機会を増加させる。 ・「第四次大阪府子ども読書活動推進計画」の基本方針のもと、朝の読書を行う。 ・遅刻者数を減らす。	(1) ・部活動入部率 55%以上。[68.4%] 入学当初より勧誘を行う。 ・(海外)語学研修等参加件数 1 件以上、海外の学校との交流件数 2 件以上。 [語学研修参加数 1 件、交流事業数 2 件] ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見 80%以上。[78.4%] ・年間遅刻者延数 1300 名以下とする。 [1228 名]	(1) ・部活動入部率は入学当初より勧誘を行ったが 58.0%であった。(○) ・(海外)語学研修等はオーストラリアへ 1 件参加した。海外の学校との交流件数は世界津波サミットとタイからの学校訪問の 2 件であった。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定率は 69.5%であった。(△) ・年間遅刻者延数は 1685 名であった。(△)
	(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく	(2) ・外部指標教材を活用し、学力の向上を図る。 ・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる。	(2) ・4 年制大学合格者を、実人数で 88%維持する。[93.0%] ・学校斡旋の就職決定率 100%を維持する。 [100%]	(2) ・4 年制大学合格率は、実人数で 94.5%であった。(○) ・学校斡旋の就職決定率 100%を維持した。(○)

府立高石高等学校

	(3) 安全で安心な学校づくりを行う	(3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する。 ・教育相談委員会を充実させ、SC とともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める。 ・人権平和教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。 ・防災・減災への積極的な取組みを図る。また、これらの安全教育や危機管理等の取組みを通して、外部組織・団体との交流や支援活動等を推進し地域貢献を図る。	・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見 90%以上を維持する。[95.9%] (3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見を 70%以上とする。[53.3%] ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 60%以上とする。[64.3%] ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 90%以上を維持。[92.8%] ・生徒による防災・減災の実践報告や発表を 3 回以上学校内外で実施する。[3 回] ・防災減災に関連する対外的活動や交流を実施する。	・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定率 94.9%であった。(○) (3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定率は 66.7%であった。(△) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率は 67.2%であった。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率は 93.1%であった。(○) ・生徒による防災・減災の実践報告や発表を学校内外で 3 回実施した。(○) ・防災減災に関連する対外的活動や交流を実施し、全校集会で発表した。またその成果を、高石市の総合防災訓練や大阪府主催の成果発表会で発表した。(◎)
2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校	(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力 UP につなげる	(1) ・家庭等での学習を定着させる。 ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すため ICT 機器等を活用した教材や指導法を研究し実践する。 (2) ・授業アンケート結果及び校内外の授業見学を通して、授業改善に取り組む。 ・初任 3 年めまでの教員を対象とした「新三研修」を継続し、研究授業とともに振り返りも行う。 ・「府立学校における働き方改革にかかる取組みについて」に沿って、教員の健康管理の観点から、時間外在校時間の縮減を行う。	(1) ・ 1 日平均学習時間 60 分以上。[22 分] ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見 80%以上を維持。[86.1%] ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を 90%以上維持。[96.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「ICT 機器等の効果的活用」の肯定的意見 85%以上を維持。[88.9%] (2) ・教員相互の授業見学を 80%以上。[76.7%] ・全教員の延べ校内外授業見学総数を 100 回以上。[108 回] ・「新三研修」に初任 3 年めまでの教員が全員参加する。 ・会議の回数を絞る等の工夫をすることによって、月平均時間外在校時間を 3 月末時点で前年度実績以下に抑える。[26 時間 57 分]	(1) ・ 1 日平均学習時間は 26 分であった。(△) ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定率は 86.2%であった。(○) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定率は 91.2%であった。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「1 人 1 台端末の効果的活用」の肯定率は 70.4%であった。(△) (2) ・教員相互の授業見学は 75.6%であった。(△) ・全教員の延べ校内外授業見学総数はのべ 231 回であった。(◎) ・「新三研修」に初任 3 年めまでの教員が全員参加した。(○) ・会議の回数を絞る等の工夫をすることによって、月平均時間外在校時間は 2 月末時点で 26 時間 08 分であった。(◎)
3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校	(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく	(1) 【学校を外に開く】 ・自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との積極的な交流を通して、地域に貢献する。 ・高石市連携の地震津波合同避難訓練で水平避難を実施。 ・教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。 【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組みを実施する。 ・学校情報の外部発信に努める。 ・創立 50 周年に向けて準備をすすめる。	(1) 【学校を外に開く】 ・年 20 回以上、出前授業や生徒派遣等を行い、諸団体・組織との交流を積極的に図る。[24 回] ・市との合同避難訓練を実施し、「探究『防災減災』」の成果発表を市と複数回共有する機会を作る。 ・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数を前年度以上とする。[113 件] 【学校を内に開く】 ・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ 700 名を維持する。[808 名] - また、保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定的意見 90%以上を維持する。[91.5%] ・積極的な情報発信に努める。広報紙「たか高トピック」を毎月定期的に発行・創立 50 周年に向けて同窓会、後援会との連携の機会を学期ごとに持つ。	(1) 【学校を外に開く】 ・出前授業や生徒派遣等を年 20 回行い、諸団体・組織との交流を積極的に図った。(○) ・市との合同避難訓練を実施し、「探究『防災減災』」の成果発表を市と複数回共有する機会を作った。(○) ・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数は 105 件であったが、前年度より校外の説明会への参加を 2 回増やし広報をより強化することができた。(○) 【学校を内に開く】 ・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ 600 名であった。(△) - また、保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率は 90.2%であった。(○) ・積極的な情報発信に努める。広報紙「たか高トピック」を毎月定期的に発行・創立 50 周年に向けて同窓会、後援会との連携の機会を学期ごとに持った。(○)